



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.



献血の日です。

～献血の現状～

血液は人工的につくること、長期間保存することができません。

今、この瞬間でも輸血を待っている患者さまは病院にいます。

いのちをつなぐ、愛の献血にご協力をお願いします。

愛知県では、当初の計画に対し
採血約-460人 供給約+370人（過不足約-830人）
という状況でした。（令和7年1月～2月 概算）

医療機関からの需要が多い状況となっています。

※全国調整により、医療機関への供給に支障をきたすことはありませんでした。

事前にご確認をお願いします！

～献血をご遠慮いただく場合～

- 当日の体調不良、発熱がある方
- 4週間以内に海外から帰国された方
- 3日以内に出血を伴う歯科治療（歯石除去）を受けた方
- 外傷のある方
- 輸血歴、臓器移植歴のある方
- 妊娠中、授乳中の方

～献血可能な薬剤について（一部）～

- ・降圧剤 ・高尿酸値治療薬（痛風） ・花粉症治療薬（一部除く）
- ・ビタミン剤 ・サプリメント ・低、中容量ピル
- ・高脂血症治療薬（一部除く） ・漢方薬

※解熱鎮痛剤（ロキソニン等）は当日、服薬していなければ献血可能です。

当日服薬OK



献血時の気分不良を防ぐため、献血の前は睡眠・食事・水分補給をしっかりとっていただくようお願いいたします。



献 血 日	5月8日（木）
受付時間	9：30 ～ 11：30 13：00 ～ 15：30
場 所	新川福祉センター ※400mL献血のみの受付とさせていただきます。

<血液の検査結果をお知らせします>

献血された方には糖尿病、肝機能、腎機能、コレステロールなどの検査をお知らせします！（希望者のみ）ご自身の健康管理にお役立てください！

献血カードのアプリができました！

予約ができるアプリ版献血WEBサービス「ラブラッド」会員大募集中です！！



※AppleおよびAppleロゴは米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。Google PlayおよびGoogle PlayロゴはGoogle LLCの商標です。

※最終的な献血可否の判定は、疾患や手術などの治療状況、服薬の内容なども併せて、当日の健診医師が総合的に判定しております。



愛知県赤十字血液センター

献血の基準について

健康な方ならば、献血による身体への影響はほとんどありません。しかし、体調をくずしていたり、健康状態の良くない時に献血をすると健康を損ねる場合もあります。献血者の健康を守るためにさまざまな基準を設けています。

(献血基準)

献血の種類 項目	全血献血		成分献血	
	400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	400mL	200mL	600mL以下 (循環血液量の12%)	
年 齢	男性:17～69歳※1 女性:18～69歳※1	16～69歳※1	18～69歳※1	男性:18～69歳※1 女性:18～54歳
体 重	男女とも50kg以上	男性:45kg以上 女性:40kg以上		
最高血圧	90mmHg以上 180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上 110mmHg未満			
脈 拍	40回/分以上 100回/分以下			
体 温	37.5℃未満			
血色素量 (ヘモグロビン濃度)	男性:13.0g/dL以上 女性:12.5g/dL以上	男性:12.5g/dL以上 女性:12.0g/dL以上	12.0g/dL以上 (赤血球数が標準値にある) 女性:11.5g/dL以上	12.0g/dL以上
血小板数	—	—	—	15万/μL以上
1年※に献血できる回数 (1年は52週として計算)	男性:3回以内 女性:2回以内	男性:6回以内 女性:4回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	

※1 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限られます。

※2 期間の計算は直近の採血を行った日から起算します。

(献血の間隔)

今回の献血 前回の献血	全血献血		成分献血	
	400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血※
200mL献血	男女とも4週間後の同じ曜日から献血できます			
400mL献血	男性は12週間後、女性は16週間後の 同じ曜日から献血できます		男女とも8週間後の同じ曜日から 献血できます	
血漿成分献血	男女とも2週間後の同じ曜日から献血できます			
血小板成分献血				

※血漿を含まない場合には、1週間後に血小板成分献血が可能になります。ただし、4週間に4回実施した場合には次回までに4週間以上あけてください。

献血Q&A

献血は誰でもできるの？

A. 献血者の健康面の安全を確保するため、また、輸血を受ける方の安全を守るために、献血を行っていただけるかの問診を行います。献血基準の主なものは、左図のとおりです。

また、輸血を受ける方の安全を守るため、HIV(エイズの原因となるウイルス)感染が疑われる方、輸血や臓器移植を受けた方、一定の期間に英国などへの海外滞在歴がある方等については問診で確認し、献血をご遠慮いただいています。

献血の際に、病気がうつることはありませんか？

A. 衛生環境は厳重に管理しているため、心配ありません。

献血をする時に使われる針や血液のバッグなどは、献血者一人ごとに新しいものと交換されますので、ほかの献血者から肝炎ウイルスやHIVなどがうつる心配は絶対にありません。

初めての献血ですが、400mL献血でも大丈夫ですか？

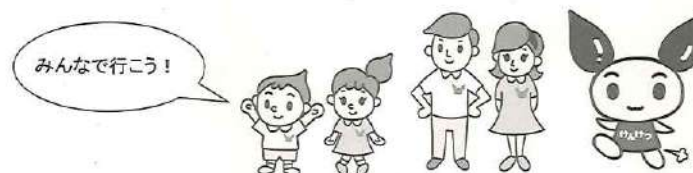
A. 献血前に医師が問診により健康状態を伺い、血圧や血色素量(ヘモグロビン濃度)を測定して、採血基準に適合するかどうかを判断しますので、ご安心ください。

ちなみに、人間の血液量は一般的に男性で体重の約8%、女性で体重の約7%といわれており、例えば、体重50kgの方であれば、男性は約4,000mL、女性は約3,500mL血液が流れています。

医学的にみて全血液量の15%以内が失われても問題がないことが報告されていますので、男性600mL、女性525mLまでの献血は問題ないことになります。

医療の現場では、どれくらい400mL献血の血液製剤を必要としているのでしょうか？

A. 全国の医療機関への赤血球製剤の供給は、97%以上が400mL献血由来の血液製剤となっております。



愛知県赤十字血液センターのホームページはこちら！

<https://www.bs.jrc.or.jp/tkhr/aichi/>

